

# ユニオンファンド 月次レポート

第104号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2017年7月10日作成

## MONTHLY TOPIC

## 新ファンドを組み入れます

### さらに高い運用成果を求めて

ユニオンファンドのここまでの運用成績は、設定来の年率でほぼ10%となっています。資金をより良いタイミングでより高い成果を上げそうなファンドに振り向けることができた結果であろうと思います。こうした運用を容易にしてくれているのは、お客様からの継続的な資金流入です。改めて感謝申し上げます。

とはいえ、ここまでの成果に満足しているわけではありません。必要なのは、常に一流のファンドを見つけてそこに投資し続けていくことです。

お預かりしている資産も50億円を超え、投資先のファンドを一層拡充する必要も増してきました。

こうしたことから、長期にわたる検討を経て、この度「ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA」（以下「コムジェスト・ヨーロッパF」）を新たに組み入れることとなりました。

### いまさら「欧州」？ いいえ、欧州ではなく「欧州の企業」です

「欧州なんて、成長率低いんじゃないの？」と思われる方は少なくないでしょう。ある面では確かにそのとおりで、経済全体はパッとしません。足元では景気回復が顕著になってはいますが、では長期的にどうなのかと言われるれば、大きな期待はできないというのが常識的な理解だろうと思います。でも、そこには大きな誤解もあります。

そもそも私たちは、国に投資しているのではなく、企業に投資しています。日本においても言えることですが、国の経済は伸び悩んでいても企業は大きく成長している、というケースは多々あります。欧州にも成長を続けている企業はたくさんあります。高いブランド力や優れた技術を持つ企業、世界で活躍している企業などです。そうした企業を選び抜いて投資することは、より高くより安定した運用成果をもたらすものと確信しています。

日本にいたら見つけにくいこうした企業にも投資するために、ユニオンファンドはファンド・オブ・ファンズという形をとっています。ここで重要なのは、投資先のファンドを担う会社の運用力です。コムジェスト・ヨーロッパFで注目すべき点は、P6の下段にごく簡単にまとめましたので、ご覧いただければと思います。一言で言えば、「高い調査力に裏打ちされた高い運用成果」が大きな魅力のファンドです。

良い企業なら、中長期的に業績を伸ばすことができ、株価もごく自然に上がっていく、というのがユニオンファンドの考え方です。それを地で行くコムジェスト・ヨーロッパFのこれからの活躍にぜひご期待下さい。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## UNION FUND REPORT

## ユニオンファンド運用状況

(2017年6月末現在)

## 基準価額

23,914 円

## 純資産総額

53 億 47 百万円

## 期間別騰落率(%)

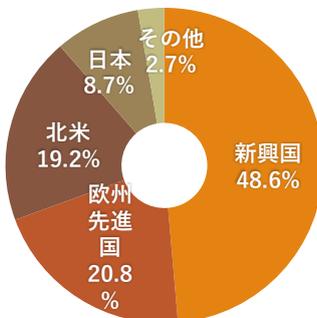
1 ヶ月	1.15%
6 ヶ月	9.85%
1 年	30.27%
3 年	22.83%
5 年	104.90%
設定来	139.14%

## 複利年率(%)

10.54%

\*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

## 地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率  
(2017年5月末現在)

## 基準価額と純資産総額の推移



## 組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	7.0%	2.8%
キャピタル F	欧米	14.2%	1.8%
ハリス F	欧米	22.0%	3.1%
コムジェスト・エマージング F	新興国	38.2%	0.3%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	0.0%	2.3%
現金等	-	18.6%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

## ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## UNION FUND REPORT

## 2017年6月の市場動向と運用状況

## 投資環境と基準価額の推移

世界の景気と企業業績は拡大しているものの、金融政策の転換が警戒され、株価は小幅な上昇にとどまりました。

6月中旬には、米国の中央銀行に当たる連邦準備制度理事会（FRB）が利上げ（FF金利の引き上げ）を実施しました。2015年末から数えて4回目で、利上げ幅は合計1%となります。また、FRBは量的緩和策（いわゆるQE）の出口戦略についても具体的なプランを提示しました。QEは、リーマンショックを機に始まった異例の金融緩和策で、民間が保有する国債などの債券をFRBが大量に買い付けることにより、市場に資金を供給するというものです。景気がある程度回復してきたことから、その手仕舞いがいよいよ始まりそうです。

緩和から引き締めへの転換といっても、それは米国景気が拡大してきたことによるものですから、必ずしも悪い話ではありません。しかし、異例の金融緩和によって大量のおカネが市場に出回り、それが株価を押し上げてきたという面も確かにあります。FRBは慎重にQEの巻き戻し（保有資産の縮小）を進める方針のようですが、投資家は景気や株価への影響を見極めようと身構えているところだと思います。

一方、欧州でもここきて景気回復が一段と加速し、経済には明るさが増しています。また、フランスの議会選挙はほぼ予想どおり中道勢力が過半数を占め、昨年来警戒されてきた極右の伸長は一服しました。このため政治面でも安心感が広がっています。ただ、景気拡大に伴いインフレへの警戒感も徐々に増しつつあり、中央銀行（ECB）の関係者からは、金融緩和策の縮小をにおわす発言が相次ぎました。このため月末には長期金利が急反発し、株価がやや大きく下がる原因となりました。

ユニオンファンドに組み入れている4本のファンドはすべて値上がりしました。日本株が好調だったため、さわかみFが大きく上昇しました。海外市場のうち先進国は、ユーロを中心に為替が対円で強かったため、ハリスFを中心に堅調でした。コムジェスト・エマージングFは、新興国通貨が対円でそれほど強くなかったことに加えて、先月好調だった反動もあって市場の動きに出遅れ、上昇率は小幅にとどまりました。

## 運用の状況

6月は買い付けを見送りました。月末時点の組入比率は81.4%で、5月末とほぼ同水準を維持しています。

## 今後の見通しと運用方針

欧米では金融緩和が最終局面を迎え、徐々に平常化に向かっていく状況です。景気の拡大と金利の上昇という好悪両面の材料をにらみながら、市場は当面、一進一退の膠着状態が続くかも知れません。こうしたことから、しばらく現状を維持しつつ、相場の下落場面があれば買い増しを行う考えです。なお、P1で触れましたコムジェスト・ヨーロッパFについては、当面4%程度の新規買い付けを行う方針です。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# さわかみ F (さわかみファンド)

基準価額の推移



国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 プリヂストーン	4.8%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
2 日本電産	3.9%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
3 花王	3.4%	日本	化学	トイレットペーパー首位
4 ダイキン工業	3.4%	日本	機械	エアコン世界首位
5 信越化学工業	2.9%	日本	化学	塩ビ・シリコンエー世界大手
6 TOTO	2.8%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器首位
7 国際石油開発帝石	2.6%	日本	鉱業	石油メジャー
8 浜松ホトニクス	2.6%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
9 トヨタ自動車	2.3%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
10 テルモ	2.2%	日本	精密機器	医療機器 (カテーテル)
上位 10 銘柄	31.0%		現金等	12.1%

業種別構成比



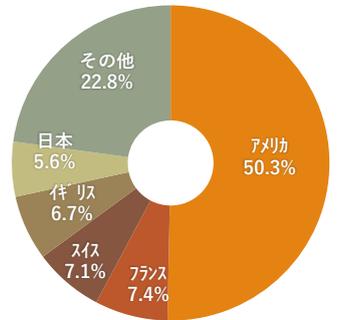
※ 業種：東証 33 業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 6 月末現在>

# キャピタル F (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラス Z)

基準価額の推移



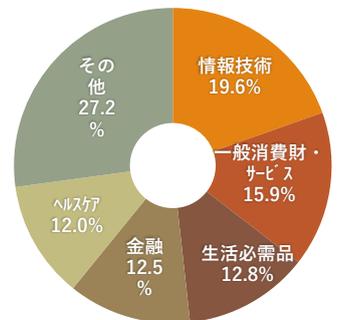
国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Alphabet	2.4%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
2 Microsoft	2.4%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューター・ソフト
3 Incyte	2.4%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品メーカー
4 TSMC	2.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
5 Visa	2.1%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
6 ASML	2.1%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
7 Amazon	1.8%	アメリカ	一般消費財・サービス	EC サイト、ウェブサービス
8 AIA	1.7%	香港	金融	生保・金融サービス
9 Pernod Ricard	1.6%	フランス	生活必需品	アルコール飲料、食品
10 Philip Morris	1.6%	アメリカ	生活必需品	世界最大のたばこ会社
上位 10 銘柄	20.3%		現金等	5.8%

業種別構成比



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 5 月末現在>

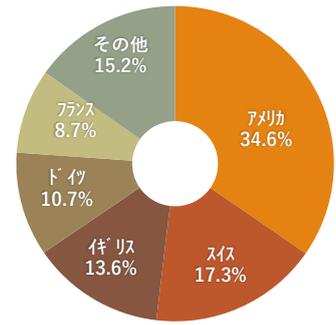
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# ハリスF (ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007)

基準価額(分配金込み)の推移



国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 GLENCORE	5.3%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
2 ALLIANZ	5.0%	ドイツ	保険	総合保険大手
3 DAIMLER	5.0%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
4 CREDIT SUISSE	4.9%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
5 CNH INDUSTRIAL	4.9%	フランス	資本財	農機・建機メーカー
6 BNP PARIBAS	4.7%	フランス	銀行	フランス大手銀行
7 JULIUS BAER	3.5%	スイス	各種金融	プライベートバンク
8 GENERAL MOTORS	3.4%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ3の一角
9 GRUPO TELEVISIA	3.3%	メキシコ	メディア	放送局
10 ALPHABET	3.1%	アメリカ	ソフトウェア・サービス	グーグルの持ち株会社
上位10銘柄	43.2%		現金等	4.8%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率

<2017年5月末現在>

# コムジェスト・エマージングF (ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンド SA)

基準価額の推移



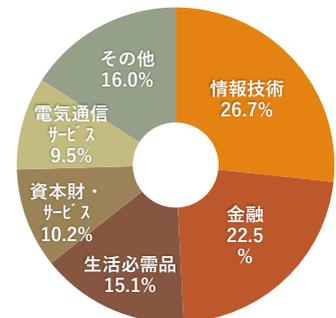
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC	4.9%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 CHINA LIFE	4.3%	中国	金融	生保国内最大手
3 NETEASE ADR	4.3%	中国	情報技術	オンラインゲーム
4 POWER GRID OF INDIA	4.1%	インド	公益事業	電力関連 (送電網)
5 MTN	3.5%	南アフリカ	電気通信サービス	携帯電話
6 SAMSUNG LIFE	3.5%	韓国	金融	生保
7 INNER MONGOLIA YILI	3.1%	中国	生活必需品	乳製品国内大手
8 INFOSYS ADR	3.1%	インド	情報技術	ITソフト総合サービス
9 PING AN INSURANCE	3.0%	中国	金融	保険大手
10 HANGZHOU HIKVISION	2.9%	中国	情報技術	ビデオ監視機器世界大手
上位10銘柄	36.8%		現金等	2.7%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率

<2017年6月末現在>

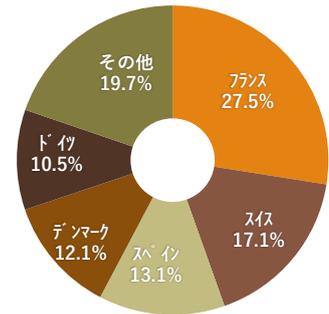
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# コムジェスト・ヨーロッパF (ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA)

基準価額の推移



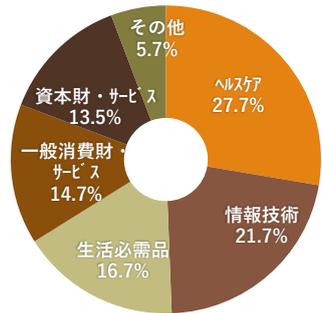
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 AMADEUS	6.5%	スペイン	情報技術	旅行予約システム
2 INDITEX	5.9%	スペイン	一般消費財・サービス	アパレルメーカー
3 ESSILOR	5.1%	フランス	ヘルスケア	光学製品
4 WIRECARD	4.8%	ドイツ	情報技術	オンライン決済
5 SARTORIUS STEDIM	4.7%	フランス	ヘルスケア	ウイルス除去フィルター
6 COLOPLAST-B	4.7%	デンマーク	ヘルスケア	人工肛門世界大手
7 SODEXO	4.0%	フランス	一般消費財・サービス	病院・学校等の給食
8 DASSAULT SYSTEMES	4.0%	フランス	情報技術	欧州大手 3D ソフト会社
9 L'OREAL	3.6%	フランス	生活必需品	化粧品世界最大手
10 AB FOODS	3.6%	イギリス	生活必需品	食品製造・衣料小売
上位10銘柄	46.9%		現金等	5.9%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 6 月末現在>

## 報告 「コムジェスト・ヨーロッパF」は、こんなファンドです

長期で運用成果を上げるのにもってこいのファンドと考えています。ポイントは以下のとおりです。

### 1. 優れた運用成果

ユニオンファンド設定来で見ますと、既に組み入れている 4 本のファンドの中では第 2 位の成績です。また、運用を担うコムジェスト社が 1993 年末にスタートした同種のファンドは、直近まで年率（複利）で 11.40% の上昇となり、同ファンドの参考指数の 2 倍近い成績をあげています。

### 2. 企業を厳選する能力

こうした高い成果の背景こそが重要です。それは、同社が「Quality Growth」と呼んでいる「質の高い、成長力のある企業」を選別する能力だと言えます。

例えば、2003 年から 2018 年まで（17 年と 18 年は同社予想）、欧州の主要 600 社の年間売上高の伸び率は平均して 3% 程度ですが、前述の同種ファンドの投資先企業は同 9.2% に達しています。

組入銘柄数は 30 台と集中投資を行っていますが、深くて念入りな調査に基づく厳しい選別の結果です。

同社は長期的な業績拡大を最も重視するため、景気など外部環境頼みの企業への投資は避け、経営者の質を含めて自力で成長することが可能と考えられる企業が投資先の中心を占めています。

(運用責任者 久保田徹郎)

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## NOTICE

## 業務管理部からのお知らせ

### 目論見書の改訂について

2017年6月30日にユニオンファンドの目論見書を改訂いたしました。

#### 【今回の主な改訂箇所】

1. 委託会社情報の更新
2. 運用実績情報の更新
3. 投資対象である指定投資信託証券の追加

※ 新たな交付目論見書、請求目論見書は、弊社ホームページに掲載しています。

※ 今回の目論見書改訂において重要な事項に変更はありません。

「目論見書不交付の同意」をされているお客様への新たな交付目論見書の交付は省略させていただきます（交付をご希望の場合は、弊社業務管理部（TEL：0263-38-0725）までお申し出ください。）。

### 取引残高報告書について

今回、「平成29年4月～6月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

#### 「お預り証券等の残高明細」の見方

お預り証券等の残高（イメージ）

銘柄名	数量	評価金額合計[a]	運用損益[a-b+c]	円
(預り区分)	基準価額	投資金額[b]	※a,b,c及び運用損益は全預り通算で算出	
(決算日)	評価金額	受取金額[c]		
	取得単価	個別元本		

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成基準日（平成29年6月30日）現在の基準価額です。
評価金額	作成基準日現在の残高の「評価金額」です。 （「評価金額」＝「数量」×「基準価額」÷10,000で算出されます。）
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計[a]	評価金額の合計です。
投資金額[b]	ご購入された金額の累計です。 ※相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額[c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成基準日現在の運用損益です。 「運用損益」＝「評価金額合計」－「投資金額」＋「受取金額」

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## RISK AND FEE

## ユニオンファンドのリスク・手数料

### 『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

### 『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

**申 込 手 数 料** お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。  
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

**換 金 手 数 料** ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

**信 託 財 産 留 保 金** 信託財産留保金はありません。

**信 託 報 酬** 純資産総額に年 0.864%（税抜き 年 0.8%）の率を乗じて得た額です。  
毎日、当ファンドの信託財産より控除されます。  
[\*実質的な信託報酬：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3%（概算）]  
\*『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めた率です。  
目安であり、組入状況により変動します。

**そ の 他 の 費 用** 上記のほか、次の手数料・費用等が当ファンドの信託財産より控除されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税等相当額の費用を含みます)
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用(監査費用)(消費税等相当額を含みます)

※ 監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。